

(別紙様式2)

## 普及指導員調査研究報告書

課題名：オリジナルリンドウの収量向上

所属名：農林総合技術センター企画戦略部 技術革新普及グループ

担当者氏名：尾関 仁志、安良田 勉

### <活動事例の要旨>

本県で振興しているオリジナルリンドウは、目標とする収量を十分に確保できておらず、収益性の改善が課題となっている。そこで、適期管理によるリンドウ収量向上を目指し、産地における指導力強化のため、栽培管理や生育に関する情報の共有、省力技術等の実証に取り組んだ。

具体的には、現地での指導に活用するため、毎月2回、各産地の生育状況を県域で共有し、栽培管理のポイントを各農業部へ発信した。各産地では、情報共有ツールにより得られた生育情報や時期別の栽培管理情報を活用した指導が実施された。また、省力技術や新たな病虫害防除技術等の実証ほを設置し、成果が得られた技術については産地に導入することとした。さらに、品種特性に応じた適切な栽培管理を実施するため、栽培マニュアルの改正を行った。

しかしながら、令和7年度は夏季の高温と少雨の影響により、主な出荷時期である7～9月に花卉の着色不良や葉焼け症状等の高温障害が発生し、県内の総出荷本数は246千本（R6年比77.2%）、株当たり出荷本数は3.4本と減少した。

今年度の結果を踏まえ、産地における技術課題や拡大策について協議し、次年度は高温障害対策を中心に取り組むこととした。

### 1 普及活動の課題・目標

オリジナルリンドウは、産地拡大に向けて作付推進が必要となっているが、産地では適期に適切な栽培管理が徹底されておらず、収量増加による収益性の改善が課題となっている。そこで、花き担当者が各産地の生育情報や栽培管理ポイントを共有し、活用することで現地指導を強化し、実証ほの設置による新たな技術の導入や現地研修会等を通じて技術力の向上を図る。

### 2 普及活動の内容

#### (1) 各地域の生育状況とりまとめと栽培管理情報の発信

Microsoft Teams を利用し、花き担当者間でリンドウの生育や栽培管理に関する情報を共有した。農業部花き担当者は、各産地における生育状況や病虫害発生状況、現地指導内容を記入し、革新支援専門員は共有された情報をもとに栽培管理のポイント等を毎月2回（4～3月期・計22回）発信することで、適期管理の指導を支援した。

#### (2) 実証ほの設置と現地研修会の開催

各産地において、省力技術や新たな病虫害防除技術等に関する実証ほを設置し（8項目・14か所）、実証結果や残された課題について協議した。また、研修会では各産地の課題や課題解決に向けた取り組みについて情報交換を行った。



写真1 現地ほ場研修会（7/28防府市）

【農作業支援ロボットによる省力防除】



写真2 現地ほ場研修会（9/30美祿市）

【太陽光を利用したLED防蛾灯】

### （3）品種特性に合わせた栽培管理技術の改正

県オリジナル品種については、品種間で開花時期・立茎数・草丈・耐暑性等の特性が異なるため、一律の栽培管理マニュアルを見直し、特性に応じた管理に改正した。

## 3 普及活動の成果

### （1）各地域の生育状況とりまとめと栽培管理情報の発信

情報共有された他産地の生育状況や栽培管理情報は、各地域における栽培指導に活用された。各地域では、新規栽培者を中心とした巡回指導や展示圃を活用した栽培講習会の開催、適期栽培管理の注意喚起など、普及指導活動が展開された。

しかしながら、令和7年度は夏季の記録的な高温と少雨の影響により、主な出荷時期である7～9月に花卉の着色不良や葉焼け症状等の高温障害が発生し、県内の総出荷本数は246千本（前年度比77.2%）、株当たり出荷本数は3.4本と減少した。

### （2）実証ほの設置と現地研修会の開催

実証ほ結果の検討により、省力化や効率的な病虫害防除、品質向上につながる技術として、下記の技術を栽培マニュアルに記載し、産地に導入することとした。

- ・緩効性肥料による春肥一発施用
- ・性フェロモン剤によるチョウ目の防除
- ・定植時および覆土実施時の土壌処理除草剤の利用
- ・定植1年目株の簡易遮光（フラワーネット支柱を活用した簡易遮光）

また、農作業支援ロボットによる省力防除技術や太陽光を利用したLED防蛾灯については、導入コストが大きいいため、ほ場条件や経営規模を考慮した上で、費用対効果を検証し、ケースごとに導入可否を検討することとした。

### （3）品種特性に合わせた管理技術の改正

品種特性に応じた管理として、栽植密度・整枝本数・施肥量・病虫害防除等の栽培管理を品種別の管理に見直し、マニュアルに反映することとした。特に、早生品種と晩生品種では立茎数が異なるため、品種特性に応じて栽植密度や整枝本数を適正にすることで、単収向上を図ることが可能となる。

## 4 今後の普及活動に向けて

県域での栽培管理情報の共有や現地ほ場での研修会により経験年数が少ない花き担当

者にも栽培管理ポイントが理解され、適期管理が指導できる体制が整ったと考えられる。本取組により、各地域では新規栽培者等への重点的な指導が実施されており、今後は個別指導だけでなく、部会組織内への波及が期待される。また、県域での情報共有については、病害虫の発生事例や対策等が蓄積されることにより、共通の指導ツールとして活用できるため、継続した取り組みが必要であると考ええる。

産地では、気象変動による高温障害が課題となっており、出荷量減少の最大の要因となっていることから、令和8年度は高温障害対策を重点的に取り組むこととした。各産地に高温対策技術の実証ほを設置することとし、実証結果や効果をもとに産地へ技術導入を図ることでリンドウ栽培の単収向上と収益性改善につなげていく。